

第62回全国保育問題研究集会



サブテーマ

- コロナ禍で何が失われ何に気づかされたかを確認め、子どもも大人も、人と人との繋がりの中で育ち合うことの喜びをたしかめよう。
- 東日本大震災から12年、あの日を語り継ぎ、災害から命を守るために学び伝えよう。
- 日本国憲法・子どもの権利条約に基づいて、平和で人権が尊重される心豊かな社会を築こう。
- 東北の「生活綴方教育」の歴史をつなぎ、子どもの内面を深く理解し、仲間の中で一人ひとりを大切にする保育実践を学びあおう。
- すべての子どもの幸せのため、保育の公的責任の拡充を求め、安心して保育・子育てができる環境をつくろう。

2023年6月3日(土)・4日(日) 分科会・閉会集会 ハイブリッド開催

〔録画配信開始〕

〔分科会 閉会集会〕

	5月27日(土)	6月3日(土)	6月4日(日)	7月2日(日)
開会集会・記念講演	【録画配信】5月27日(土)～7月2日(日)			
特別講座	【録画配信】6月3日(土)～7月2日(日)			
分科会		【17分科会 (Zoom)】 10:00～12:30 13:30～16:30	【17分科会 (Zoom)】 10:00～12:30	
閉会集会			【中継配信】13:30～14:30 【録画配信】6月19日(月)～7月2日(日)	

主催：全国保育問題研究協議会・第62回全国保育問題研究集会 仙台集会実行委員会

第62回全国保育問題研究集会 《歓迎のことば》

保問研全国集会对面（宮城教育大学）とオンライン・オンデマンドのハイブリッドで開催されます。

思えば、2021年6月開催の仙台集会に向けてスタートを切ったのは、2019年10月でした。それから3年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、度重なる延期を余儀なくされてきました。そのようななかでも、東京集会と京都集会の成功に励まされ、ICTを活用した研究交流のノウハウを学ぶことができました。第62回全国集会（仙台集会）に向けて、仙台保問研のメンバーが一丸となって、準備を進めています。

2011年3月11日の東日本大震災から12年が過ぎようとしています。死者・行方不明者・震災関連死者など、2万人を超える尊い命が失われてきました。また、東京電力福島第1原子力発電所の事故により、故郷からの避難を余儀なくされたり、風評被害による差別を受けたりと、多くの方々が涙を流しました。未曾有の大災害によるダメージは思いのほか大きく、いまだ復興途上の感は否めません。厳しい現状は子どもをめぐる数々の統計データにも反映されています。宮城の合計特殊出生率は、6年連続で低下して、全国でも2番目に低い数値です。児童虐待件数は全国9番目、小学校でのいじめ件数は全国10番目、不登校の中学生の割合は全国で2番目と高くなっています。こうした深刻な現実を前に、人間形成の基礎を培う乳幼児期の生活と育ちを守っていく使命を痛感しています。全国からの有形無形のご支援に加え、保育に携わる仲間からの応援に、励めと勇気をいただいています。

私たちは、震災への様々な想いを込めて、集会テーマを「命の守り手として生きる」としました。「あの日」を語り継ぎ、命を守る学びを伝えること、子ども1人ひとりの内面を深く見つめ、子どもから学び、子どもに返していく保育実践を創造すること、すべての子どもの幸せのために公的保育制度を豊かに発展させること……特にロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、東アジアの政情に不穏の空気が流れている昨今、子どもの権利条約や日本国憲法を尊重して、すべての人が尊ばれる平和でインクルーシブな社会の実現が求められています。今日的な課題に応えていくためにも、全国の仲間がつながり、保育について語らい学び合う仙台集会にしたいと存じます。明日の保育を創造するうねりを共に生み出していきましょう。

仙台集会実行委員長 佐藤 哲也（宮城教育大学）

開会集会（宮城教育大学）

配信開始 5月27日（土）
録画 4月16日（日）

- オープニング
- 歓迎あいさつ…実行委員長 佐藤哲也
- 主催者あいさつ…全国保育問題研究協議会 入江慶太
- 基調提案…全国保育問題研究協議会基調提案作成委員会
- 記念講演「震災を語り伝える若者たち」

記念講演 | 震災を語り伝える若者たち ～きずなFプロジェクト 8年間の軌跡～



震災をたつぷりと学んだ中学生が自主組織「Fプロジェクト」を立ち上げ、被災者との交流や語り部活動を始める。中学卒業後も同級生双子姉妹の実体験を基にした紙芝居の上演や出前授業を続けている。辛く悲しい体験と向き合い、被災者から感謝される中で、自己肯定感をふくらませ震災を自分事にしていった10代の若者たち。その8年間の軌跡を語ります。



瀬成田 実さん

1958年、宮城県仙台市生まれ。元中学校社会科教師。現みやぎ教育相談センター所長。東日本大震災当時、組合専従として子どもと教職員のサポートに奔走。2015年9月から七ヶ浜町立向洋中学校で震災総合学習を指導。現在、教え子がつくる「きずなFプロジェクト」顧問。全国生活指導研究協議会会員。著書『震災を語り伝える若者たち みやぎ・きずなFプロジェクト』（かもがわ出版）。

きずなFプロジェクト

2018年3月、向洋中学校を卒業したメンバーを中心に結成した震災伝承団体。現在20歳から16歳までの26名が紙芝居を中心とした伝承活動をしている。

閉会集会（宮城教育大学）

6月4日（日）13:30～14:30
中継配信（7月2日迄録画配信）

- 荒馬踊り…仙台集会実行委員
- 閉会のあいさつ…仙台集会実行委員会
- 次回開催地 北海道より
- ケセラ合唱

分科会

6月3日(土) 10:00~16:30
6月4日(日) 10:00~12:30

1 乳児保育

【ハイブリッド開催】

乳児保育分科会では、乳児を主体的な存在であるとして、その主体性をどのように育むかという議論を深めてきました。また「子どもの最善の利益」の観点から乳児保育のよりよいあり方も考えてきました。これまでの乳児保育においては、保育内容や保育士配置基準、保育所の設置基準などの最低基準の引き上げや、待機児童問題が問われてきましたが、近年は全国的な乳児保育の定員割れなどの新たな問題も出てきました。出生率の低下や新型コロナウイルス、女性の就業率など、社会的背景の影響を大きく受けていますが、このような時だからこそ乳児保育の質の向上と、子どもたちにとっての希望ある未来に向けて、具体的な実践に学びながら、幅広く議論していきましょう。

運営委員 浅川淳司(石川)・遠田えり(北埼玉)・亀谷和史(愛知)・小林美花(北海道)・佐々木洋子(東京)・友廣万貴子(岡山)・西林正美(兵庫)・沼田史(福岡)・野村朋(大阪)・布施佐代子(愛知)・松田千都(京都)・中川伸子(広島)

2 集団づくり

【ハイブリッド開催】

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、子どもたちの要求を掘り起こし、豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいのか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

運営委員 大元千種(佐賀)・川上隆子(熊本)・光本弥生(広島)・鈴木牧夫(東京)・中島常安(北海道)・中洲良子(大阪)・長瀬美子(大阪)・西野純(仙台)・服部敬子(京都)・林若子(南埼玉)・山本理絵(愛知)・吉田真理子(三重)・脇信明(長崎)

3 あそび

【ハイブリッド開催】

いま子どもたちはどんなあそびをしていますか。そのあそびの中で、子どもは、生まれてきてよかったと感じるようなたのしさを味わい、自分の人生は自分のものだという手ごたえを感じているでしょうか。なぜ保育ではあそびが大事だと言われるのか、3密にならないことを意識せざるを得ない各地の保育状況を共有しながら、あらためて考えてみたいと思えます。分科会では各提案に即しこれまでの討議の柱を踏まえ、1. 子どもやその家族を理解し、2. 子どもがあそび環境、夢中になるあそび、あそび集団、あそびの過程、飼育や栽培などとの出会いについて語り、3. あそびへの保育者の関わりや、4. 保護者や地域との連携について考える時間をもちたいと思えます。子どものあそびの原動力としての年長者やおとなへの憧れや、またあそび子どもに励まされるおとなの状況など、あそびを生成する相互関係についても今こそ考える時間をもちたいと思っています。

運営委員 岡村由紀子(静岡)・木都老克彦(神奈川)・塩崎美穂(東京)・竹内圭(京都)・田中浩司(東京)・富田靖子(愛知)・仲村健一(沖縄)・古林ゆり(福岡)・松元泰樹(鹿児島)・三浦和恵(仙台)・宮城千鶴(大阪)

4-a 身体づくり 運動

【ハイブリッド開催】

この分科会は、保育実践における「運動」のあり方について考えるところです。「運動」はからだを育てることはもちろん、保育者、仲間との関係、こころを育てていきますが、単に「運動」すればよいというものではありません。今なぜ、その「運動」なのか、その教材を通して何を教えるのか、子どもの運動要求をどのように掘り起こし、組織化するのか等、乳幼児期の発達に即して、「運動」の目的、内容、方法等を丁寧に考える必要があります。今日、便利な生活が進行するなかで「運動」する機会そのものが奪われつつあり、乳児期からより意識的な身体づくりの実践が求められています。各園がおかれている保育環境、保育条件のなかでの工夫はもちろん、子どもの最善の利益を保障するという視点に立って、豊かな身体づくりを実践するために必要な保育環境の基準についても考えていきたいと思えます。

運営委員 上月智晴(京都)・佐々木雄大(東京)・塩田桃子(大阪)・千葉直紀(信州)・福井英二(福岡)・横井喜彦(愛知)

分科会の実践提案は、2023年4月25日から販売の『季刊保育問題研究 320号』(新読書社)に掲載されています。必ずご持参ください。

購入される方は、各地の保研または新読書社までお問い合わせください。(新読書社 FAX: 03-3814-3097 E-mail: info@shindokusho.jp)

4-b 身体づくり 食

【ハイブリッド開催】

この分科会は、子どもたちや保護者がおかれている現状を知り、「食べる事を楽しむ」工夫を通して子どもたちの生活が豊かになる実践を語り合い、その中で子どもたちの成長を確かめ合う分科会です。これまでの集会では、給食の委託化、食の安全性、O-157、狂牛病、震災、異常気象による風水害、コロナ禍での食育、アレルギーや宗教食の対応、医療ケアの必要な子どもへの手立て、職員間の連携について、知恵と工夫を出し合い学びあってきました。目に見えない恐怖や不安には正しく学び、正しく恐れ、正しく備えることで一歩先に進みだすことができます。共にそれぞれの現場の実態や具体的な実践に学びながら、その中で子どもたちの成長をしっかり確かめ合い、「給食は保育そのもの」であることについても語り合いたいと思えます。また、「子どもの豊かな育ちを保障する食」について考えあひ、子どもを取り巻く食や食生活の問題について幅広く議論していきたいと思えます。

運営委員 安部貴洋(仙台)・井上かおる(大阪)・加藤雅美(愛知)・久木元広実(滋賀)・小西律子(兵庫)・宮田隆子(京都)

5-a 認識と表現 文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は、絵本の読み聞かせ・お話づくり・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかかわる園文庫の取り組みなど多岐にわたっています。多様な実践に迫る共通の視点は、文学と出会うことによって認識を深め、表現し、その中で子どもたちの生活がよりよいものになり、集団の質が高まることです。文学の実践の可能性を追求していきましょう。

運営委員 小川絢子(愛知)・佐藤智恵美(北海道)・田代康子(東京)・徳永満理(兵庫)・西川由紀子(京都)・山崎由紀子(大阪)

5-b 認識と表現 美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識し合うと同時に、様々な実践の違い、結論を急がず、じっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で、相互理解を深めていけたらと思えます。そこから見えてくるものを大切にしたいと思えます。

運営委員 伊藤正雄(東京)・高倉華代(福岡)・田中義和(愛知)・平沼博将(京都)・本田美絵(大阪)・山田真世(広島)

5-c 認識と表現 音楽

音楽分科会は、子どもたちの生活を語り、子どもたちの歌声等を聴きあひ、「音楽が保育園の暮らしの様々なこととつながり子どもたちを育てている事実」を深め合っています。保育の中の音楽は多岐にあります。これまでの分科会の中では、『わらべ歌』『創作曲』『あそびうた』『キーボード』『太鼓』『歌曲』『劇ごっこ』『リズム表現』などが提案されてきました。子どもたちを夢中にさせるその教材の魅力を大事にし、選んだ音楽の何が(どこが)子どもたちを育てたのかを探り続けています。分科会では、子どもの描いた絵、制作物、絵本などの展示、あそびや歌の様子のDVDなどで、提案の内容を深めています。

運営委員 荒木美穂(北埼玉)・安藤正彦(京都)・坂手佳子(大阪)・高橋弘子(群馬)・藤波陽子(栃木)・山並さやか(熊本)

5-d 認識と表現 科学

「科学」とは、「人間が好奇心や探究心を持って行う、ものごとやことからの真理の探究」のことを指します。科学と聞くと、難しそうだなと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。身近なところから科学のタネはいくらでも転がっていますし、その不思議さや面白さについて自分なりに考え始めたとき、それはすでに科学の領域に足を踏み入れていることになるのです。科学分科会では、子どもなりの気づきや発見、そして、仮説を立て検証するプロセスを大切にしています。また、そのことを人と人、人とモノとの多様なかわりの中で豊かに表現し、認識を深めていくことを大切にしています。そんな議論をしたい方はぜひ参加してください。

運営委員 高橋白百合(愛知)・滝口圭子(石川)・富田昌平(三重)

6 保育計画

コロナ禍の中で、生活や遊び、行事、保護者参加、地域とのかかわりをどのように計画していくかが大きく問われています。様々な制限がかかる中で模索してきた3年。「保育計画」分科会では「運動会や発表会等、行事は何のためにするのか」「保護者との共有はどのようにしていったらいいのか」など、保育現場で創意工夫してきた実践を基に「子どもにとって」の原点に立ち返りながら討議を進めています。

その中で、保育理念や子ども像に基づきながら、職員で語り合い、保護者と共有しあう合意形成の大切さを確認してきました。多様な価値観や災害、危機管理等、変化する社会情勢の中で、子どもの最善の利益を守るために大切にすべきことを保育計画にどのように反映していくか、討議を深めましょう。

運営委員 入江慶太(岡山)・合田史宜(愛媛)・永谷孝代(大阪)・渡邊保博(京都)

7 保育時間と保育内容

保護者の労働形態の変化とともに、保育時間も多様になっていますが、子どもたちの食事・睡眠・生活リズムは健全に守られているでしょうか。早朝、夕方、夜間の保育は子どもたちの気持ちの安定やあそびへの意欲に見合った工夫がなされているでしょうか。この分科会では、子どもたちの24時間の生活を見直し、生活づくりの基礎単位となる保育の「日課」「デイリープログラム」を見直す実践を討議してきました。『子どもの生活と長時間保育—生活のリズムと日課』(新読書社2019年刊・保育問題研究シリーズ)は1972年から2019年までの提案と討論の成果です。あいつづ保育施策の変化のもと、「保育時間」をめぐる新たな問題提起を求めています。

運営委員 河野友香(愛知)・清水民子(京都)・清水玲子(東京)・横井洋子(北海道)

8 保育政策と保育運動

2019年の終わりに流行し始めたコロナパンデミックの中、保育現場では、取組の「中止」の結論のみでなく、感染拡大に細心の注意を払い、経験と知恵を出し合い、子どもたちのよりよい保育の実現に向けて、たゆまぬ努力を積み重ねてきました。政府も「エッセンシャル・ワーカー」として、保育労働に関わる保育者の存在を認めざるを得ない状況になってきています。それのみでなく、ただでさえ脆弱な保育制度(職員配置基準や面積基準、職員の処遇等)の課題を浮き彫りにしました。処遇改善の課題一つとっても、政府の提案する「保育職員一人当たり月額9,000円支給」は、課題解決にはほど遠く、保育関係者の要求に沿ったものではありません。根本的には、不公正な公定価格の内容を充分検討し、抜本的な改革につなげていかなければなりません。

子どもの貧困や待機児童問題、子育て保障の地域間格差の広がりなど問題が深刻化するばかりです。この根元にある、市場原理に委ねた保育・子育て制度から子どもや親・保育者の「暮らし」を支える「権利としての保育」を保障する制度への抜本的な転換をどのように行うか、これが本分科会の課題です。提案から参加者のみなさんと課題を共有し、各地の保育や子育て施策の現状や保育要求に応える取組に学び、保育の質を高める施策課題と保育運動のあり方を考えます。

運営委員 大宮勇雄(東京)・景山一正(岡山)・武尾正信(京都)・平松知子(愛知)・藤木克己(大阪)・森山幸朗(島根)・吉葉研司(沖縄)

9 障害児保育 (ハイブリッド開催)

2022年の9月に障害者権利条約の批准国である日本に対して、国連の障害者権利委員会による初の審査が行われました。その結果、日本の特別支援教育は障がいのある子どもとない子どもが一緒に同じ教室で学べる環境にないことに対して、強い改善勧告が出されました。一方で日本の障がい児保育に対しては、障がいの有無に関係なくどの子どもも受け入れるという基本的な方針が続けられており、一定の評価を受けました。このことは誇ってよいと思います。これまでの分科会の議論を振り返りつつ、豊かな発達が保障される保育とは何か、どの子どもも互いに尊重しあえる保育とは何か、保育で培われてきたインクルーシブな環境とは何かを討議の中から確認し、障がいのある子どもの健やかな成長を育む社会の実現に向けて、共に考えていきたいと思います。

運営委員 河合隆平(東京)・杉井知子(仙台)・田中洋(大分)・田中良三(愛知)・高田智行(滋賀)・五十嵐元子(東京)・三山岳(京都)・山中万美(愛媛)・山口浩明(鹿児島)

10 父母と共につくる保育内容 (ハイブリッド開催)

コロナ禍における保育が長く続いてきました。「三密」を避けて…という感染予防策は、これまで私たちが大切にしてきた「父母と共により育てる」ことに大きな溝をつくるものでした。保護者の生活状況も大きく変化する中で、共に子どもの成長を見守っていくことが困難になっている現状があります。そんな中でも父母との信頼関係を築き、繋がり合い、保育を伝えていく工夫や葛藤など全国の保育園での取り組みが、様々な実践となり報告されています。コロナ禍で見えてきた発見や気づきが、今までの「当たり前」から「これから何を大切にしていけるのか」という新たな取り組みの方向を示してくれました。保護者と手を取り合って、一緒に保育をつくっていくことの大切さを学び合えたらと思います。

運営委員 小堀智恵子(愛知)・木村裕子(大阪)・細見玲美(京都)

11 乳幼児期の平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、貧困、飢餓、虐待、失業、人種・民族・性などの差別の無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えた子どもたち・親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育むことも、仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育てる実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育を改めて平和教育の視点で捉え直してみるから始めていきたいと思います。

運営委員 石井奈美(広島)・石原剛志(静岡)・ウィンフィールドひろみ(沖縄)・船越美穂(福岡)・前田晶子(神奈川)

12 地域に開かれた保育活動

子どもの貧困や格差の広がりが、子どもの成長・発達にも大きな影響を及ぼしています。すべての子どもがひとしくその権利を保障されるために、保育施設が果たす役割はこれまでに大きく広がっています。同時に、保育施設だけでなく、自治体行政をはじめ子どもに関わるあらゆる機関・団体などが協働し、子どもが育つ環境である地域の人間関係や経済基盤などの社会的諸関係および自然環境を守り育むことも重要な課題になっています。この分科会では、保育所や幼稚園の地域活動とともに、地域子育て支援センターをはじめとする自治体の子育て支援活動の実践などを報告し、交流するなかで、地域に開かれた保育活動の発展をめざします。

運営委員 愛甲明実(鹿児島)・黒澤祐介(兵庫)・林あずさ(大阪)・松浦崇(静岡)

13 特別分科会 異年齢保育 (ハイブリッド開催)

近年、異年齢保育に取り組む園が増え、その形態も小規模の保育園だけでなく年齢別にクラス編成ができるような園でも行われたり、幼児だけでなく乳児を含む異年齢保育も行われています。2016年から異年齢保育の分科会が設置され、異年齢保育を実践している園、関心を寄せている園も含めてたくさんの参加者で議論と交流を行っています。異年齢保育を通して子どもの育ちを語り、そこから見えてきた疑問や課題を交流し、展望を語り合い、共に未来を切り開いていきたいと思います。

運営委員 川田学(北海道)・佐藤満(滋賀)・谷川芳秋(京都)・森内靖子(静岡)・宮里六郎(熊本)

ハイブリッド開催 とは

仙台会場が設置され、会場参加またはオンラインでの参加が選択できる方法です。



特別講座

— 録画配信 —

6月3日(土)～7月2日(日)

A 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 陥穽(おとしあな)

中教審初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の
架け橋特別委員会」では、審議の柱のひとつに、要領・指針
で示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
の実践への活用が挙がっています。本講座では、いわゆる
「10の姿」の思想的・実践的問題点を指摘して、批判的に乗
り越えていく展望を開いていきます。

佐藤哲也(宮城教育大学)

B 「3.11を学びに変える」

勤務していた海辺の中学校は卒業式の準備中でした。
あの日から気づき、考えたことをお話しします。当時の子
どもたちの様子、青年になった彼らの活動も紹介します。
私の娘が楽しく通っていた大川小学校のことも。

失われたものは戻らない。でも、未来に向かうきっかけ
にはできるはず。一緒に考えましょう。

佐藤敏郎(大川伝承の会)
企画 全国保問研 震災学習委員会

C せんきょの絵本『ケロッキューと おおきなあな』

<親子で選挙に親しむ絵本を作りたい>と、絵本を制
作。吉野作造記念館オリジナルキャラクター、ケロロ・ウ
ッキー・ブーカ、そして吉野作造をモデルとしたサクゾウ
さんも登場し、ストーリーや絵まで職員が工夫を凝らし
た一冊。現在、読み聞かせと共に「こども投票体験」「人形
劇ケロッキュー」も実施している。

氏家 仁・本間明美・菅原暢子(吉野作造記念館)

D 一人ひとりを大切にし合える仲間づくり —仙台保問研の実践に学ぶ—

保育者との信頼関係を土台に、遊びと伝え合いを通し
て、一人ひとりを大切にし合える仲間関係を築いていく
ことが、どの子にとっても安心して楽しい園生活と、一人
ひとりの育ちにつながっていくことを仙台保問研の実践
を通して確かめていきたい。

杉山弘子(尚絅学院大学)

E 子どもに贈る食の地図

子どもたちに贈るための食の地図(全体像)を描いてみ
たい。自分が食べるものが自然や人とのようなつなが
りを持ち、そのつながりが自分にとってどのような意味
を持っているのか。そもそも食べるとはどのようなこと
か。そのようなことを考えてみたいと思います。

安部貴洋(山形県立米沢栄養大学)

F 「人が 人を 人にした」

2011年山形集会特別講座の大越桂さん(重度重複障
害、医療管理)再び。筆談で紡ぐ「人が人を人にした」。苦
米地サトロさんの歌に乗せる「すてきなニュース」。「みん
な子どもが教えてくれた」桜井ひろ子。3人の心とみんな
の心をぐちゃまぜにして、歌い、紡ぎ、考え、人となる道を
求めあいましょう。

大越 桂(詩人)・苦米地サトロ(シンガーソングラ
イター)・桜井ひろ子(元保育士)

G 幼稚園と家庭との連携 ～それぞれの『わたし』にできること～

本園には、『保護者と教師の会』という保護者会があり、
活動しています。また保護者を中心に、園外の地域の方、
大学の講座受講の方、東日本大震災で被災した方等を含
め、子どもたちとの交流を大切にしてきました。これから
は、更にそれぞれの『わたし』にできることを発揮し、新し
い時代においても子どもも大人も共に成長していきたい
と思っています。

坂本由佳里(尚絅学院大学附属幼稚園)

H 作文教育から学ぶ 困難を抱えた子ど もに寄り添いながら

子どもは、日々の生活の中で様々なことを思い、感じて
います。伝えたいことがたくさんあります。子どもの作文
に目を通し、赤ペンを入れて返す。おたよりに載せて紹介
し学級のみんなで読みあう。そんな営みをずっと続けて
きました。今回は、家庭に課題を抱えながらも、懸命に生
きようとする二人の子どもに焦点を当て、お話しします。

佐藤秀寿(宮城作文の会・小学校教諭)

I 地域のなかの保育:北海道の事例から

みなさんの北海道のイメージはどのようなものですか?
広大な大地に豊かな自然、おいしい食べもの、過ごしやす
い夏、冬は白銀の世界…、といったところでしょうか。本
講座では、北海道特有の地理や気候、産業等のなかで営ま
れる保育を紹介しながら、保育が地域の諸条件と切り離
せないことの意味を考えていきます。

長津詩織(北海道保問研 名寄市立大学)

参加要項

■開催方法

- *開会集会・記念講演、特別講座・・・録画配信（視聴期間 約1か月）
 - *分科会・・・ハイブリッドまたはオンライン（ZOOM）
 - *閉会集会・・・中継配信（後日、録画配信もあり）
- ※日時・視聴期間については表紙をご覧ください。

■申込み

お申込み開始は 4月1日（土）より インターネットにて
一台のパソコンで複数名参加される場合も、お一人ずつ参加申込みをしてください。
※団体申込み（割引）プランはありません。
宿泊のご手配は参加者各自にてお願いいたします。尚、名鉄観光サービスでも宿泊予約は可能です。
ご希望の方は名鉄観光サービス(株)仙台支店までご連絡ください。

■参加費と申込み締切・振込期限

【一般】 ①一次締切	4月30日（日）	6,000円
一次振込期限	5月10日（水）	
②二次締切（分科会参加申込み最終）	5月17日（水）	6,500円
二次振込期限	5月27日（土）	
③最終締切（録画配信視聴のみ）	6月30日（金）	6,500円
最終振込期限	7月1日（土）	

【学生】 一律3,000円

（注）②の分科会申込み締切日以降のお申込みは、録画配信の視聴のみになります。

○分科会・分散会への参加について

- *一部の分科会・分散会・閉会集会は仙台会場を開設し、参集が可能です。仙台会場には定員がありますので、先着順でお申し受けいたします。
- *分散会の分け方につきましては、4月1日（土）以降、全国保問研のHPに記載します。
申込みフォーム（申込み時の画面）に希望分散会を選択してください。
- *参加ご希望の分科会・分散会の上限人数に達した場合、他の分科会・分散会を選んで申込んでいただくことになります（先着順）。
- *参加する分科会・分散会は、**5月17日（水）（二次締切）**まで変更可能です。

◆お申込み方法

- 1) 「全国保育問題研究協議会（全国保問研）」を検索、または
右のQRコードを読み取ってください。

<http://zenhomon.jp>



- 2) お申込みは「仙台集会申込みページ」の「名鉄観光」をクリックしてください。申込みサイトの指示にしたがい、登録に関する基本的な情報（氏名や所属、住所、メールアドレス等）と希望の分科会／分散会等をご記入ください。登録後に、内容確認メールが届きます。お客様控えとして大切に保管してください。

これで申込みは完了です。

その後、分科会／分散会への参加等に必要な情報（緊急の連絡を含む）を、登録していただいたメールアドレス宛てに連絡します。

- * 基本的には、個人で申込んでください。「メールアドレスが無い」等の方は、代表者の方を通して申込みをすることも可能です。代表者の方は、メールで届く各種のお知らせを、申込みをした人にお知らせください。

お申込み者情報入力画面

お申し込み連絡担当者情報入力

お申し込み連絡担当者の入力画面です。
申込完了メールの送信・各種券類の送付・ご請求・ご連絡等は、お申し込み連絡担当者に行います。
(※お申し込み連絡担当者は参加者に限りません。)

▼申込者情報

代表者氏名

必須

姓

名

フリガナ

必須

セイ

メイ

所属保問研

必須

▼ 保育問題研究会

職場名・学校名

送付先区分

必須

-

▼

参加証・請求書送付先

必須

〒

-

▼

市区町村

番地

建物名等

電話番号

必須

-

-

FAX番号

-

-

メールアドレス

必須

確認用のため2回入力してください。

パスワード

必須

パスワードは6～20文字の英数字の組み合わせで設定してください。
使用できる文字は半角英数字となります。
確認用のため2回入力してください。

ここで入力したメールアドレス、パスワードは動画視聴の際に必要となります。
必ずお控えください。

【次へ】から進むと参加者の登録画面となります。
二人目、三人目を登録される場合、【参加者を追加】をお選びください。

※スマートフォンからお申込みの場合でも、返信メールが受取れるよう、ドメイン設定をお願いいたします。

- 3) メール到着後、メールに記載の口座に参加費の入金をお願いいたします。

※入金をされなかった場合でも自動取消とはなりませんのでご注意ください。

（取消の際は必ず、名鉄観光申込みサイトの「マイページ」より取消の手続きを行ってください）

※セキュリティの関係で上記返信メールが届かない場合がございます。その場合、申込みができているか名鉄観光サービス(株)仙台支店（TEL 022-227-3611）に電話で確認をお願いいたします。

- 4) 集会当日の分科会参加方法や録画視聴方法は、5月に届く「集会要綱」に掲載します。

■昼食弁当のご案内（昼食弁当は旅行契約に該当いたしません。付帯サービスとしてお申込みを承ります）

- (1) 取扱期間：2023年6月3日(土) 1日間
- (2) 弁当代金：一食1,000円（税込・パック茶付）
- (3) 引渡場所：集会場内「お弁当引渡し所」にてお渡しいたします。「お申込み内容確認書」をご提示下さい。
 - ・当日の販売は行いませんので必ず事前にお申込みください。
 - ・12:30～13:30の間に受け取って下さい。受取り後30～40分以内の喫食にご協力下さい。
 - ・弁当の空箱を回収いたします。14:00までに「お弁当引渡し所」にお持ち下さい。
（上記時間以外のゴミは受け取り不可となります。）

■宮城教育大学までの交通案内

- ・地下鉄東西線「仙台駅」から八木山動物公園方面行きに乗車、
「青葉山駅」下車「北1出口」から外に出て歩道を右方向に徒歩10分

■取消について（トラブル防止の為、お電話による変更・取消は受付いたしておりません。）

お申込みの取消は、メールアドレスとパスワードを入力してログインいただくマイページ内にて手続きをしてください。

・参加費

参加取消日	参加取消料	ご返金額
5月19日(金)まで	500円	取消料・振込手数料を除いた残金
5月25日(木)まで	参加費の20%	
5月26日(金)以降	参加費の100%	返金いたしません

・昼食弁当（旅行契約には該当致しません）

弁当取消日	取消料	ご返金額
弁当受取日の前日12時までの解除	無料	振込手数料を除いた残金
弁当受取日の前日12時以降の解除	弁当代の100%	返金いたしません

■分科会への参加および録画視聴の方法

5月から順次配送を始める「集会要綱」に掲載します。

■ZOOM視聴について

ZOOMの基本操作についてはZOOMの公式サイトをご覧ください。

【ZOOM公式サイト】 <https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

《お申込み・お問合せ先》

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 6階

名鉄観光サービス株式会社 仙台支店

「第62回全国保育問題研究集会」担当 志賀・植松

電話：022-227-3611／FAX：022-261-4623

E-mail：zenhomon2023@mwt.co.jp

【営業時間：平日9:30～17:00（土日・祝日は定休日となります。）】